



ROTARY INTERNATIONAL DISTRICT 2550

〒320-0066 宇都宮市駒生1丁目1番6号 コンセーレ (栃木県青年会館)

CONCERE 1-1-6 KOMANYU UTSUNOMIYA CITY TOCHIGI JAPAN 320-0066

(2016~2017) ROTARY CLUB OF UTSUNOMIYA SATSUKI

TEL 028-624-1417 FAX 028-624-1843 URL <http://www.facebook.com/satsukiRC>

## 宇都宮さつきロータリークラブ 会報

### 第 94 回 例 会

日 時:2016年8月29日(月)

19:00~20:00

会 場: コンセーレ

・開会	秋山 幹雄 SAA
・点鐘	湯澤 敦史 副会長
・ロータリーソング (我らの生業) 斉唱	
・ビジター紹介	湯澤 敦史 副会長
メイク 佐藤 節 特別代表 (宇都宮陽北ロータリークラブ)	
・会長挨拶	湯澤 敦史 副会長



皆さんこんばんは、今日は石川会長が第1回会長・幹事会出席のため不在となりましたので、私の方で代理を務めさせていただきます。よろしく願いいたします。

暑い8月も残すところあと数日となってまいりました。台風10号の進路も気になるところではございますが、この季節になるといつも思い出す短歌がございます。それをご紹介します。「秋来ぬと目にはさやかに見えねども、風の音にぞ、驚かされぬ」

真夏に梢を揺らした風の音とさつき梢を鳴らした風の音は、ちよっともの悲しい感じがして秋が近づいたのかなと風の音にも季節感を感じる繊細な日本人の感性を歌った歌でございます。

さて石川、齊藤年度になりまして早2か月が過ぎようとしています。会長の掲げる「好意と友情」を深めようとスローガンに少しずつ近づいている感じがします。これからさらにみんなで盛り上げていこうではありませんか。

今日の例会は会員卓話となっております。楽しみにしておりました。大庭さん、武田さん、辰巳さんよろしく願いいたします。





1 会場変更と準備並びに片付けについて

8月22日(月)開催の8月理事会により、会場が2階カトレアから3階中会議室に変更になりました。さらに、例会前の準備並びに片付けも、コンサーレにお願いいたしました。

2 本日の連絡

① 第1回会長幹事会が、宇都宮東武ホテルグランデで開催されています。

・出席者は、石川均会長と、児玉博利副幹事です。

② 会員卓話 1人10分をお願いします。

- ・大庭 千鶴 会員
- ・武田 文夫 会員
- ・辰巳 洋一 会員

3 第95回例会について

・第3回フォーラム「My Rotary」の活用について

・講師は武田文夫会長エレクト。

・食事は、生姜焼き定食を用意します。

・例会終了後、9月理事会を開催いたします。

・委員会報告

各委員会

青少年奉仕委員会 大庭 千鶴 委員長

内仲会員と8月28日(日)、宇都宮東ロータアクト、足利東ロータアクト、ロータリークラブ関係者15名で養徳園の花火大会に参加しました。

・出席報告

三菅 敦 出席委員

会員総数23名 出席19名 出席率82.0%

・スマイル報告

大庭 千鶴 スマイルボックス担当

佐藤 節(宇都宮陽北RC) 8月最後の例会にメイクさせていただきます。



<大庭 千鶴 会員>



野村證券でファイナンシャルアドバイザーをしています。石川県金沢市生まれ、地元の商業高校で簿記を学び、短大では幼児教育と秘書士になるための勉強をしました。卒業後TKCに入社、昭和60年宇都宮に初めて来て泊まったのがコンセーレでした。社内結婚で宇都宮へ移住、その後も10年ぐらいTKCに勤務していました。

契約満了に近づいてきたとき、いろいろな人と接する仕事がしたいと思い、ファイナンシャルプランナーの資格を取りました。当時は異業種からの入社を受け入れていた時期でもあり、野村に中途採用されました。この9月30日で10年になります。地元ではないので、人とのつながりをどうするかということを考えていたところ、営業はいろんなところに出た方がよいと言われ、初めて参加させていただいたのが日本酒の会、その後中小企業の経営者の方々が多く参加されている倫理法人会などに出させていただきました。

このようにして宇都宮に移り住んで23年間、TKCの中で、野村で、地域の中で応援していただきました。今の仕事は、変動する相場の中、投信・債券・株などに関わっていますが、人の中でお役に立てる仕事をしたいと思っています。地元企業の役に立てるようにやってきました。売買だけでなく相続等、野村グループオールで手伝っています。堅いことを身近に感じることでできるクッション役となれるようやってまいります。

<武田 文夫 会員>



私も、大庭さんと同じTKC出身です。大庭さんが、昭和60年、私が平成4年入社ということで大先輩だということが本日初めてわかりました(笑)

さて、本日は、私が現在の会社を創業する経緯と会社で何をやっているかのご説明をさせていただきます。

私は、昭和43年生まれで、出身は埼玉県大宮市、生まれは東京、本籍は、父の出身である京都です。現在栃木におりますので、どんどん北上しているわけです(笑)

私の父は、埼玉で機械彫刻を生業とする小さな工場を経営していました。その影響で、高校時代に社長になることを決めました。将来社長になるために、まずは経営の勉強に進みたく、理系の得意な私は、経営工学の学科のある大学受験に取り組み合格いたしました。しかし、経営工学では思惑通りの勉強が出来ず、経営者として一番の勉強は起業することだと考え、学校にあまり行かずに1年の時に友人数名と個人輸入代行の仕事を持ち上げ、海外からのルート開拓と同級のメンバーへの販売に取り組んだのですが、自分の経営者としての力のなさから断念いたしました。その後、独学で経営の勉強をしているうちに、あっという間に4年が過ぎ、就職活動となりました。経営者になることを決めていた私は、経営コンサルタントの道に進むことを希望して、外資系のコンサル会社へ会社説明行ってみたものの、力の無さを知り、日本のコンサル会社の面接を受け、TKCに就職する事になった訳です。TKCに入社した当初より、自分は社長になることを同期に告げていたのですが、で、何をやるの?との質問に答えることが出来ない日々を送っていましたが、1995年日本にもインターネットがやって来たのを目の当たりにして、これはすごいことになると確信し、この領域で起業することを決めました。その後、TKC社内でも重要なポジションを任されながら、自分の仕事をこなし、部下を育て引き継ぎ2001年の起業するに至りました。

2001年当時、既にインターネット企業は乱立しており、今の楽天やライブドアなど既に先行している会社があり、同様の内容では勝ち目がないと考え、私はユビキタスの領域で勝負することに決め会社をリアルとサイバーを融合する社会に向けたサービスを提供する



会社として立ち上げました。というのは、産業革命の収束する期間というのは約 100 年程度、コンピューターの革命も同じと考えると、今の流れは、2044 年に収束する。最終的には、インターネットがすべてのものを巻き込んでいる時代が完了するころがそのころだととらえ、現在はまだ過渡期と判断、これから成功するビジネスモデルは、ユビキタス領域だと考えたからです。

当社では、現在 3 つの事業を展開。1 つはクラウドサービス事業、デジタル会員カードのポコカは、現在全国で利用されております。そのほかにも、いくつかサービスを提供させていただいております。2 つ目は、ソリューションサービスで、企業の競争優位性を高めるために、当社の開発力やインフラ構築力を提供させていただいております。3 つ目が当社の収益源である運用事業です。サーバーなどをデータセンターで管理し、顧客のシステムの安定稼働や、共同でインターネットサービスを立ち上げ運用するサービスを実施しております。

2001 年から立ち上げ、16 年が経過するわけですが、まだ、社員が 10 名ほどの小さな会社です。これから、全国展開を加速し、大企業になるために、これからも邁進し続けますので、よろしくお願いいたします。

### <辰巳 洋一 会員>



1967 年 3 月 25 日生れの 49 歳です。生れは愛媛県松山市です。兄と妹の 3 人兄弟です。小学校のころは何でもできて近所では神童と呼ばれていました。私の場合は負けず嫌いというよりも激しい恥ずかしがり屋で、出来ないことが恥ずかしいと思い込み一生懸命取り組んでいました。

中学に入り出来ないことが恥ずかしいことではないと経験してからはもう転落の人生でした。部活ばかりで全く勉強しなくなり中三になるころには成績は真ん中よりも下になりました。当然受験には苦労しました。志望校だけは一流で成績は 3 流以下ですから。猛勉強の末受かった松山北高校ですが、志望理由は進学校で一番サッカーが強かったという

安易なものでした。当然高校生活もサッカーばかりでまたもや大学受験で苦勞したのは言うまでもありません。サッカーが強い以外何も知らないで受かった北高ですが実は、

- ・物理平均点日本一
- ・国立大学合格率日本一

とか昔からある記録を引きずる高校で受験勉強のスパルタは半端なく大変なものでした。大学は高校の隣にある愛媛大学に進学しました。理由は簡単で実家から通うと親が喜ぶし、一人暮らしをしなくても済むという怠慢そのものです。隣の出身校である北高から 250 名位進学してましたので、よく付属高校？とか言われてました。高校時代の悪友とそのまま大学生活を送るといふ何とも想像しがたい非日常的な学生生活でした。

大学も当然全く勉強しなかったのですが、愛媛大学工学部は当時留年率日本一いや世界一ではないかといわれてまして約 50%の留年率、学科によっては60%を超えるもので当然卒業するのに大変苦勞しました。

大学卒業後、新卒でスタンレー電気という会社に入社しました。自動車のヘッドライトの設計・開発・研究をしていました。当時は残業100とか200の世界で会社と寮の往復の毎日でした。サラリーマン時代は順風満帆で昇進も早く、社内の基幹部品の開発には全て携わるメインメンバーでした。また、若手設計者の養成講座で設計塾の講師もしていました。工場ではいつも「設計のエース」と呼ばれてました。役員のご子息との縁談とかもありました。

そんな私が何故退職・独立したかという、社会に出た時から「起業をしたい」という思いがずっとあって、20年勤めて退職金が跳ね上がるタイミングの42歳の時に会社の制度を使って奥様に頭を下げ退職させていただきました。

サラリーマン時代と違い毎日家族で夕食を食べることができる状況になり人生で一番幸せな時期が来たと楽しんでます。これで収入が付いてきたら最高なんですけど。今の仕事ですが、保険の代理店です。自分自身が保険屋さんに騙された経験をもとに、相談にお見えになったお客様に保険の分析をしております。「信頼できる提案」「安心できるフォロー」をモットーに日々営業しております。

・点鐘

湯澤 敦史 副会長

・閉会

秋山 幹雄 SAA

